

ULVAC

証券コード：6728

ULVAC REPORT 2017

第113期 事業報告書 2016年7月1日～2017年6月30日



代表取締役執行役員社長
岩下 節生

社長就任にあたって

グローバル志向への意識改革による成長の土台づくり

2017年7月1日付で代表取締役執行役員社長に就任した岩下節生です。前任の小日向久治取締役会長より経営の舵取りを引き継ぎ、当社グループ事業のさらなる発展に向け、全力で取り組んでまいります。

今から65年前、「真空技術で産業界に貢献したい」という志をもって創業した当社グループは、果敢なチャレンジ精神で国内初の真空装置を手掛けました。そうした価値創造の源泉は「人」に他なりません。私はこの考えのもと、社長就任に際して、社員一人ひとりが「ワクワク・イキイキ」と活躍し、成長できる職場づくりを全社に呼びかけました。のちほどご説明する新中期経営計画においても「人財の育成」に主眼を置いた経営基盤の強化を掲げています。

また当社グループは、真空総合メーカーとして装置のみならずコンポーネント、材料、表面分析等幅広く手掛け、成長・発展を遂げました。しかし各事業が連携し合い、それを強みとして活かしてい

新中期経営計画(3カ年)を始動!
さらなる価値創造へのチャレンジ
「真空総合メーカー」としての新たな可能性を追求

くシナジー効果の発揮は、十分とは言えません。グローバル展開を加速し、真空技術による産業分野への貢献を拡大していくためには、グループ各社が相互に関心を持ち合い、他の事業領域への理解を深め、横のつながりを強めることが不可欠です。今後は、グループ内の情報共有・コミュニケーション機能を高めるとともに人事交流を促進し、組織の枠を超えて活躍できる人財を育てていくことで「真空技術の総合利用」につながるシナジー創出の土壌を築き上げていきます。

私自身のミッションとして、社員の目線をグローバル志向に意識改革していくことで、成長の土台づくりを進め、「真空総合メーカー」としての新たな可能性を拓いてまいります。

2017年6月期の振り返り

計画を上回る増収・増益で締め括った前中期経営計画

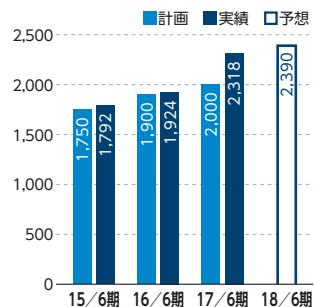
2017年6月期は、受注高および売上高、利益のいずれも期初の計画数値を大きく上回り、2期連続で過去最高益を更新しました。

フラットパネルや半導体メーカーの旺盛な設備投資を背景に、FPD（フラットパネルディスプレイ）製造装置、半導体・電子部品製造装

連結業績の推移 (単位：億円)

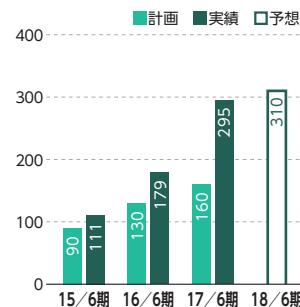
	16/6期 実績	17/6期 実績	前期比
受注高	2,236	2,355	119 (+5.3%)
売上高	1,924	2,318	394 (+20.5%)
営業利益	179	295	116 (+65.0%)
率	9.3%	12.7%	
経常利益	184	297	113 (+61.7%)
率	9.5%	12.8%	
親会社株主に帰属 する当期純利益	167	245	78 (+46.5%)

売上高(連結) (単位：億円)



※計画は2014年8月公表の中期経営計画

営業利益(連結) (単位：億円)



置、コンポーネントを中心に需要が増加し、受注高および売上高の拡大を牽引しました。利益面では、増収効果や継続的なコストダウンにより、売上総利益率・営業利益率ともに改善しました。

その結果、当期の連結業績は、受注高2,355億円（前期比5.3%増）、売上高2,318億円（同20.5%増）、営業利益295億円（同65.0%増）、経常利益297億円（同61.7%増）、親会社株主に帰属する当期純利益245億円（同46.5%増）となり、前中期経営計画（3カ年）を大幅に上回る実績となりました。

前中期経営計画は「意識改革による利益体質の強化」を掲げ、LCD（液晶）の大型化やOLED（有機EL）へのシフト等の市場変化に対応した継続的な研究開発とグループ生産体制の効率化を推進し、利益体質の改善を図りました。これにより、3年間で売上高は1.3倍に拡大し、営業利益率は6.9%から12.7%に上昇しました。

財務面では、自己資本比率が40.2%に改善し、有利子負債・借入金依存度も大幅に改善しました。

このように構造改革を通じて利益体質・財務体質が改善したことにより、社員は自信を深めています。これを次の飛躍につなげるべく、新中期経営計画を通じてさらなる価値創造にチャレンジします。

新中期経営計画を始動

FPD事業を盤石化、半導体・電子機器事業を第2の柱に

2017年7月から始動した新中期経営計画は、技術革新の大きな転換点を新たな価値創造のチャンスと捉え、持続的成長と企業価値の向上を目指す3年間の計画です。当社グループは本計画を通じて、真空技術の総合利用と装置・材料・成膜加工・分析・サービスのシナジー効果の最大化を図り、グローバルなビジネスパートナーとの連携を強め、高い収益性の企業経営を実現します。

本計画では、2020年6月期における「売上高2,500億円」「営業利益350億円」「営業利益率14%」を目標数値として掲げました。これを実現する成長ドライバーは、旺盛な需要を背景に盤石化を目指すFPD事業と、第2の柱として強化する半導体・電子機器事業です。

FPD事業は、大型テレビ向けパネル需要に対応した大型基盤のLCD設備投資が活発化しています。当社グループは、強みである

大型スパッタリング装置の高い技術力と中国市場でのカスタマーサポート体制やサプライチェーン等の優位性を活かして受注の拡大を図ります。同じく旺盛な設備投資が続くスマートフォン向けOLEDについても、中国を中心に受注の拡大を図っていきます。

半導体・電子機器事業は、スマート化の潮流のなかで各種センサー・通信デバイス・次世代電池等の小型・高効率・大容量化などの技術的課題解決が求められており、技術革新に挑戦していきます。高水準の需要が続くNAND・DRAMに加え次世代不揮発性メモリへの対応、アルバックにとって新領域となるロジックへの参入、中国国産化政策に基づく生産体制強化の動きへの対応などにより、3年間で40%の売上増加を目指します。

計画初年度の2018年6月期は、売上高2,390億円(当期比3%増)、営業利益310億円(同5%増)、経常利益310億円(同4%増)、親会社株主に帰属する当期純利益255億円(同4%増)の計画です。

新中期経営計画について



株主の皆様にお伝えしたいこと

長期的・継続的に株式保有していただける関係を構築

当期の期末配当は、1株当たり50円(前期比20円増配)とさせていただきます。2018年6月期の期末配当は、増益を前提として、さらに10円増配となる同60円を予定しています。引き続き成長投資や財務基盤強化に必要な内部留保を勘案しつつ、還元水準の向上に努め、株主の皆様のご支援に報いてまいります。

また当社は、株主の皆様に対して、事業内容や経営戦略、業績に関する正確でわかりやすい情報を積極的に発信し、コミュニケーションの機会を設けることで、長期的かつ継続的に株式を保有していただける関係づくりにつなげたいと考えています。

新中期経営計画の着実な遂行により、自らの成長可能性を高め、より大きな社会への貢献を目指していく当社グループにご期待いただき、一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。



▶ 真空技術の総合利用と装置・材料・成膜加工・分析・サービスのシナジー効果の最大化やグローバルなビジネスパートナーとの連携による高い収益性の企業経営

▶ 次の飛躍のための人づくり、果敢に挑戦する企業文化

人財の育成

- 次世代経営幹部の育成
- グローバルな人財登用・育成

事業推進力アップ

グループ連携の 深化

- グローバルな開発・調達・生産体制の強化とコストダウン
- 研究開発投資^(※)の拡大(3年間で500億円程度)
- グローバル市場・技術戦略の加速

ものづくり力アップ

(※)研究開発用設備投資額+研究開発費

情報基盤の整備

- ITの活用による情報収集・管理の効率向上

状況判断力アップ

財務体質の強化

- 自己資本比率改善等の財務体質の更なる強化

成長投資力アップ

事業成長の推進

- FPD事業の盤石化
- 半導体・電子機器事業の強化
- グローバル展開

価値創造力の向上

- マーケティング強化と独創的な技術・商品開発
- グローバルな調達・生産体制強化とコストダウン

2019年度目標

売上高

2,500億円

営業利益

350億円

営業利益率

14%

事業別概況

真空機器事業

FPD及びPV製造装置

FPD（フラットパネルディスプレイ）製造装置の受注高は、中小型液晶ディスプレイ製造装置が減少したものの、有機EL製造装置やテレビ向け大型液晶製造装置が高水準で推移し、前期を上回りました。売上高は有機EL製造装置に加えてテレビ向け大型液晶製造装置が増加、前期を大幅に上回りました。



コンポーネント

FPD、半導体、電子部品業界や自動車関連向けを中心に受注高、売上高ともに前期を上回りました。特に売上高は有機EL製造装置に搭載するクライオポンプが大きく寄与しました。



半導体及び電子部品製造装置

半導体関連は、メモリ向け投資の拡大に伴い、スパッタリング装置や自然酸化膜除去装置が増加、電子部品関連は、モバイル機器向け高性能デバイス製造装置などが堅調に推移し前期を上回る受注高、売上高となりました。



一般産業用装置

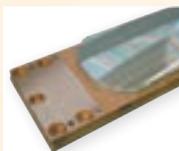
自動車部品製造用真空熱処理炉などを中心に受注高、売上高ともに前期を上回りました。



真空応用事業

材料

主に液晶ディスプレイ用スパッタリングターゲットを中心に受注、売上を計上いたしましたが、価格競争の激化の影響を受け、ともに前期を下回りました。

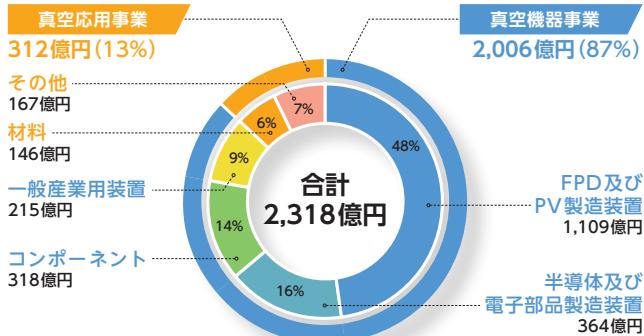


その他

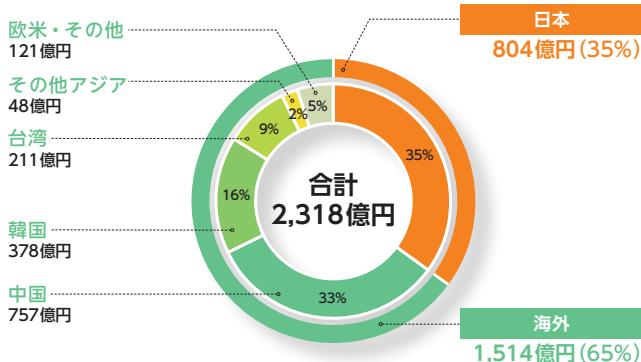
マスクブランクス関連は、高精細、高性能ディスプレイパネルや車載及び産業用半導体需要の増加を受け概ね堅調に推移いたしました。一方、分析機器関連は、受注高、売上高とも、全般的に低調な結果となりました。



事業別売上高



地域別売上高



2016.11

ULVAC Festival 開催

茅ヶ崎本社・工場において、社員とその家族、地域の方々への感謝を目的として、「ULVAC Festival 2016 (アルバック祭)」を6年ぶりに開催しました。当日は、工場見学や各種模擬店、地元中学・高校生による吹奏楽等のステージイベントなど、どのイベントも大盛況でした。当初の予想を上回る方々にご来場いただきました。



ULVAC Festival 2016全体記念写真 屋上から

2017.2

「平成28年度かながわ地球環境賞」を受賞

かながわ地球環境保全推進会議が主催する「平成28年度かながわ地球環境賞」の「温暖化対策計画書部門」で受賞しました。本社・工場のクリーンルームや研究開発装置類の休日・夜間の原則停止、事務所エリアの集約化など運用改善に加え、LED化や太陽光パネル導入などによるCO₂排出量の約37%削減(5年間)などさまざまな取り組みが評価されました。



表彰を受ける大日向EMR

2017.3

高密度実装向け600mm角基板対応ドライエッチング装置NA-1500を開発、販売開始

当社は、高密度実装向け600mm角基板対応ドライエッチング装置「NA-1500」を開発しました。近年IoTの発展にともない、電子部品の小型、薄型化の加速、高速、低電力化の要求が高まっており、高密度実装基板の製造技術はさらに重要度を増していきます。当社はいち早く市場のニーズを汲み、量産型の実装基板用ドライエッチング装置を開発し販売を開始しました。



ドライエッチング装置NA-1500

アルバックこの一年

2016 ULVAC Year in Review

2017.3

研究開発用複合スパッタリング装置「S-QAMシリーズ」を開発、販売開始

半導体や電子部品、ディスプレイの製造や、自動車部品や建材など幅広い分野で活用されているスパッタリング法において豊富な実績がある当社が、お客様のニーズに応え研究開発現場での使い勝手を最優先した、最小コストで最大のパフォーマンスを実現する研究開発用複合スパッタリング装置「S-QAM シリーズ」を開発、販売開始しました。



研究開発用複合スパッタリング装置「S-QAMシリーズ」

2017.6

アルバック、中国科学院微电子研究所と共同研究室設立を調印

当社は中国科学院微电子研究所と共同研究室の設立に合意しました。微电子研究所は、最先端の製造技術などでリードする中国最高峰の半導体研究機関です。中国半導体業界は最先端の技術を切り開くパートナーとして重要であり、今後は微电子研究所との連携を強化し、半導体産業の発展に寄与してまいります。

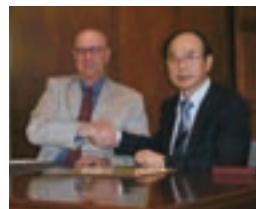


中国科学院微电子研究所

2017.6

アルバックとMIT、「Hayashi-ULVAC MISTI Seed Fund」設立

当社は、米国マサチューセッツ工科大学の教育支援機関の研究者と日本の研究機関とコラボレーションする機会を支援する「Hayashi-ULVAC MISTI Seed Fund」を設立することに合意しました。当Fundは、アルバックの元社長である故林主税氏が2008年に創立したFundを引き継いだもので、次世代研究者の育成を支援し、世界の先端技術の進歩に寄与するものです。



MIT調印の様子

連結貸借対照表(要旨)

(単位：億円)

科目	当連結会計年度 2017年6月30日現在	前連結会計年度 2016年6月30日現在
資産の部		
流動資産	1,697	1,436
現金及び預金	564	457
受取手形及び売掛金	705	580
たな卸資産	302	295
繰延税金資産	60	47
その他	73	64
貸倒引当金	△8	△6
固定資産	756	759
有形固定資産	603	604
建物及び構築物	322	334
機械装置及び運搬具	145	137
その他	136	133
無形固定資産	36	39
投資その他の資産	117	117
投資有価証券	44	40
繰延税金資産	23	19
その他	51	57
資産合計	2,453	2,196

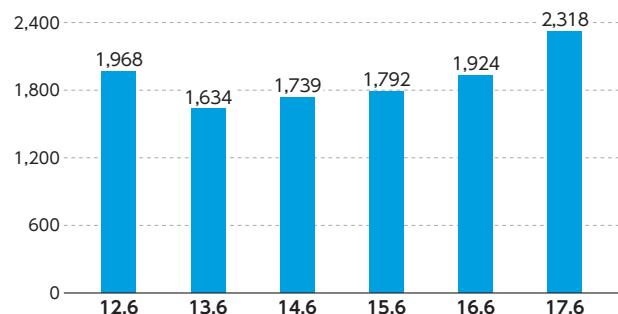
科目	当連結会計年度 2017年6月30日現在	前連結会計年度 2016年6月30日現在
負債の部		
流動負債	1,160	1,062
支払手形及び買掛金	488	353
短期借入金	302	395
その他	369	314
固定負債	244	354
長期借入金	125	232
繰延税金負債	14	14
その他	105	107
負債合計	1,404	1,415
純資産の部		
株主資本	983	763
その他の包括利益累計額	4	△34
非支配株主持分	62	51
純資産合計	1,049	780
負債純資産合計	2,453	2,196

連結損益計算書(要旨)

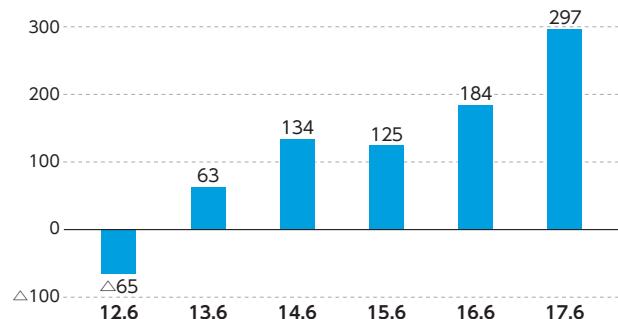
(単位：億円)

科目	当連結会計年度 2016年7月1日から 2017年6月30日まで	前連結会計年度 2015年7月1日から 2016年6月30日まで
売上高	2,318	1,924
売上原価	1,680	1,413
売上総利益	638	511
販売費及び一般管理費	344	333
営業利益	295	179
営業外収益	18	26
営業外費用	15	21
経常利益	297	184
特別利益	1	3
特別損失	11	9
税金等調整前当期純利益	288	178
法人税・住民税及び事業税	46	39
法人税等調整額	△16	△34
当期純利益	258	173
非支配株主に帰属する当期純利益	13	6
親会社株主に帰属する当期純利益	245	167

売上高 (単位：億円)



経常利益 (単位：億円)

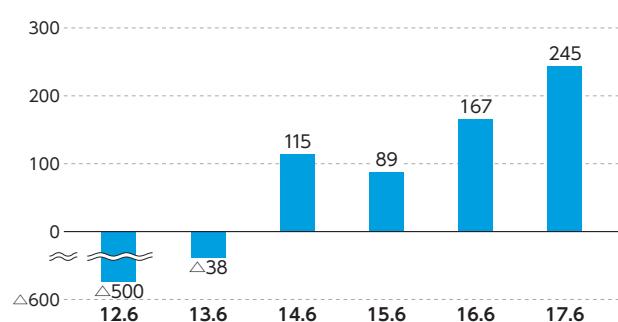


連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位：億円)

科目	当連結会計年度 2016年7月1日から 2017年6月30日まで	前連結会計年度 2015年7月1日から 2016年6月30日まで
営業活動による キャッシュ・フロー	378	237
投資活動による キャッシュ・フロー	△137	△56
財務活動による キャッシュ・フロー	△226	△324
現金及び現金同等物に 係る換算差額	12	△25
現金及び現金同等物の 増減額	27	△168
現金及び現金同等物の 期首残高	449	617
現金及び現金同等物の 期末残高	476	449

親会社株主に帰属する当期純利益 (単位：億円)



単体貸借対照表(要旨)

(単位：億円)

科目	当事業年度 2017年6月30日現在	前事業年度 2016年6月30日現在
資産の部		
流動資産	1,080	848
固定資産	644	653
有形固定資産	349	354
無形固定資産	30	33
投資その他の資産	266	266
資産合計	1,724	1,501
負債の部		
流動負債	956	794
固定負債	135	239
長期借入金	117	220
退職給付引当金	8	11
その他	10	8
負債合計	1,091	1,033
純資産の部		
株主資本	629	467
評価・換算差額等	5	1
純資産合計	633	468
負債純資産合計	1,724	1,501

単体損益計算書(要旨)

(単位：億円)

科目	当事業年度 2016年7月1日から 2017年6月30日まで	前事業年度 2015年7月1日から 2016年6月30日まで
売上高	1,379	1,103
売上原価	1,054	841
売上総利益	325	263
販売費及び一般管理費	179	179
営業利益	146	84
営業外収益	55	47
営業外費用	15	19
経常利益	186	112
特別利益	1	1
特別損失	6	13
税引前当期純利益	181	99
法人税、住民税及び事業税	12	9
法人税等調整額	△11	△34
当期純利益	180	125

会社概要 2017年6月30日現在

商号	株式会社アルバック ULVAC, Inc.
商標	ULVAC
本社	神奈川県茅ヶ崎市萩園2500番地
設立	1952年8月23日
資本金	20,873,042,500円
従業員数	1,225名(連結6,072名)

役員 2017年9月28日現在

代表取締役執行役員社長	岩下 節生
取締役会長	小日向久治
取締役執行役員副社長	坊 昭範
取締役専務執行役員	本吉 光
取締役専務執行役員	藤山 潤樹
取締役(社外取締役)	御林 彰
取締役(社外取締役)	内田 憲男
取締役(社外取締役)	石田 耕三
専務執行役員	末代 政輔
常務執行役員	小田木秀幸
常務執行役員	白 忠烈
常務執行役員	佐藤 重光

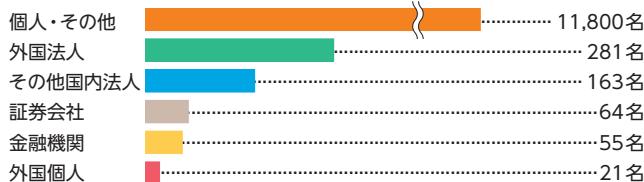
執行役員	齋藤 一也
執行役員	梅田 彰
執行役員	松本 亮
執行役員	大日向陽一
執行役員	柳澤 清和
執行役員	蔡 有哲
執行役員	池田 和夫
執行役員	萩之内 剛
執行役員	近藤 智保
監査役(常勤)	高橋 誠一
監査役(常勤)	伊藤 誠
監査役(社外監査役)	浅田 千秋
監査役(社外監査役)	宇都宮 功

株式の状況 2017年6月30日現在

発行可能株式総数	100,000,000株
発行済株式の総数	49,355,938株
株主数	12,385名

所有者別株主数

合計12,385名



自己株式:1名

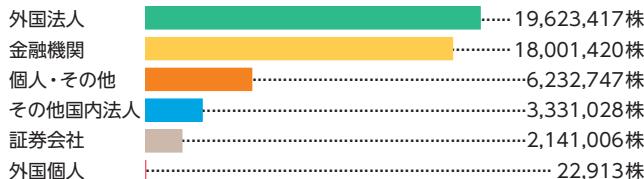
大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本生命保険相互会社	3,242	6.57
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	3,193	6.47
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,983	4.02
株式会社みずほ銀行	1,916	3.88
株式会社三井住友銀行	1,864	3.78
THE BANK OF NEW YORK, NON-TREATY JASDEC ACCOUNT	1,098	2.23
株式会社三菱東京UFJ銀行	910	1.84
TAIYO HANEI FUND, L. P.	884	1.79
THE BANK OF NEW YORK MELLON140044	878	1.78
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505019	772	1.56

(注)持株比率は自己株式(3,407株)を控除して計算しております。

所有者別株式数

合計49,355,938株



自己株式:3,407株

株主メモ

事業年度	7月1日から翌年6月30日まで
定時株主総会	9月下旬
基準日	定時株主総会・期末配当 6月30日
株主名簿管理人及び 特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	TEL.0120-782-031(フリーダイヤル) 受付時間 9:00～17:00(土・日・祝祭日を除く)

住所変更など諸手続のお申し出先について

株主様の口座のある証券会社等にお申し出ください。
なお、証券会社等に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。

三井住友信託銀行株式会社への
手続用紙(住所変更・買取請求・配当金振込指定など)のご請求
ホームページアドレス
<http://www.smtb.jp/personal/agency/>

未払配当金の支払について

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。

配当金のお受取り方法について

配当金を配当金領収証でお受取りの株主様には、確実に配当金をお受取りいただける預金口座や証券会社の口座への振込みによる配当金のお受取りをお勧めします。詳しくはお取引証券会社等にお問合せください。

IRカレンダー

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
	第2四半期 決算発表			第3四半期 決算発表			期末 決算発表			第1四半期 決算発表	

定時株主総会

ホームページのご案内

当社ホームページでは、最新のニュースや技術情報など、当社をご理解いただくためのさまざまな情報を提供しております。



<https://www.ulvac.co.jp/>

アルバック

検索



ULVAC 株式会社アルバック

本社・工場 〒253-8543 神奈川県茅ヶ崎市萩園2500 TEL.0467-89-2033

